

## 2022年度 北京大学国際関係学院学術交流 報告書

日時：2023年1月12日（木）15:00～（北京時間14:00～）

### 1. スケジュール：

15:00-15:10 開会の挨拶

15:10-16:00 成蹊大学法学部 光田剛 教授

題目：「幣原外交について」（中国語題目“关于币原外交”）

16:00-16:40 質疑応答

16:40-16:50 休憩

16:50-18:10 北京大学国際関係学院 赫佳妮 助理教授

（通訳：北京大学外国語学院 王京 准教授）

題目：「戦争・革命と中国現代外交概念：20世紀30年代における外交知識類図書に基づく考察」

（原題“战争、革命与中国现代外交概念：基于20世纪30年代外交知识类图书的考察”）

18:10-18:35 質疑応答

18:35 まとめ、閉会

### 2. 概要

2023年1月12日（木）に北京大学国際関係学院との間で学術交流が行われた。今年度も昨年度に引き続き日中の往来が困難であるため、Zoomを用いて研究会を開催することとした。昨年同様、年内の見通しがつかなかったため、2022年度後期になってから計画を立てはじめ、年明けの1月に開催することとなった。

成蹊大学法学部・光田剛教授は「幣原外交について」という題目で発表され、幣原喜重郎に関する最新の研究成果を紹介し、その実証性と方法論的革新が高く評価されることを指摘された上で、今後は当時の中国側の状況が幣原外交にどのような影響を与えたのかといった、近代中国研究の立場からの視点も合わせて研究を進めるべきではないか、という展望を示された。

北京大学国際関係学院・助理教授は「戦争、革命と中国現代外交概念：基于20世紀30年代外交知識類図書の考察（戦争・革命と中国現代外交概念：20世紀30年代における外交知識類図書に基づく考察）」という題目で発表され、近代中国において外交に関する概念や外交事情がどのように解釈され一般大衆に普及していったのかについて、30年代に出版された大衆向けの外交関連書籍を中心に検討された。そしてそこには戦争や革命という当時の中国の時代背景が大きく影響していたこと、またこうした書籍や教育を通じてエリートだけでなく大衆も外交についての言説の形成や実勢に参加していたと指摘された。

参加者は27名（成蹊大学法学部17名、北京大学国際関係学院10名）。Zoomを利用した会議形式であったが、大きなトラブルもなく報告が行われ、質疑の時間にも活発な議論が交わされた。